

# 日本記者クラブ会報

第 448 号  
2007 年  
(平成 19 年)  
6 月 10 日 発行

〒100-0001  
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一  
日本プレスセンタービル  
◎ 社団法人 日本記者クラブ  
http://www.jnpc.or.jp

## 続・ニュースは内幸町から

### 滝鼻氏（読売）を理事長に再任

5月24日の総会で第18期の役員（6ページ）が選任された。総会を一時中断して開かれた理事会で滝鼻卓雄さん（読売）が理事長に再任された。副理事長は宇治敏彦さん（新・中日）と石村英二郎さん（再・NHK）で、専務理事は事務局長の兼務。「ニュースは内幸町から」を標榜



理事長を中央に宇治（左）石村の両副理事長  
総会後の役員懇話会

「日本記者クラブから世界に向けてのニュースを発信できるように執行部全員で努力していきたい」とあいさつした。その中核になるのが新任の船橋企画委員長（94年度クラブ賞受賞者）。4月に「著者と語るザ・ペニンシュラ・クエスチョン」で話していただいたばかりだが、今度はゲストを考慮し、クラ

する滝鼻体制2期目の各委員会委員長は次の通り。

- 総務委員長 朝比奈豊（再・毎日）
- 資格委員長 喜多恒雄（再・日経）
- 企画委員長 船橋洋一（新・朝日）
- 会報委員長 住田良能（再・産経）
- 施設委員長 金平茂紀（再・TBS）

ブ行事を企画する側の責任者に。早速、新しい企画委員会のメンバーを委嘱して、7月の参院選での党首討論会に対応することになる。

「同業者なので断るわけにいかないのだ」と、記念講演に出て来てくれた塩野七生さん。「ローマ人の物語」（15巻）を、どうして書き始めたかを、冒頭、約10分で語った。一神教でない文明に属する塩野さんとことん形而下にこだわって見たローマ史だということが分かった。

## 塩野さんのメッセージ

塩野さんの話は、現在と2000年余り前を光速リフトで往復したり、途中下車したり、反芻したりして、考えるといった調子が特徴。怠惰な聴衆にはフォロイしづらいだろうが、会員の目はきらきら光っていた。とくに①戦争観、②政治観について述べたところでは。

①は諏訪正人さんが9ページに書いてくださったので、②で民衆、政治家、ジ

ジャーナリストを語ったところを不作法がつまみ食いしてみる。

○政治はとつても重要。歴史をみてみると、民衆は最初から最後まで健全です。それでも政治が舵取りを間違えば、最初にもろに被害を受けるのはその民衆です。

○政治家というのは大切です。私の書いたものの主人公はほとんど政治家ばかりといっている。人々の生活に政治家の善し悪しがどんなに影響したのか。私は政治家というのは具体的なことをやってくればよいと思っている。抽象的なことは小説家や宗教家がやればよい。

○みなさん方ジャーナリストは少しばかり任務を果たしていないと思う。政治家は具体的なことをいえば足を引っ張られて怖いとたいい思う。だから、なにか抽象的なことではぐらかそうとする。

○そういう政治家の発言を、具体的に民衆にリレーしてほしい。具体的なこと置き換えて、分析して有権者に渡せば、日本人は相当正確に判断できると思う。

徹底して形而下の問題にこだわって歴史を書く塩野さんが、そこを守備範囲とするプレスへ送った連帯のメールといえないだろうか。

（専務理事 岩崎玄道）

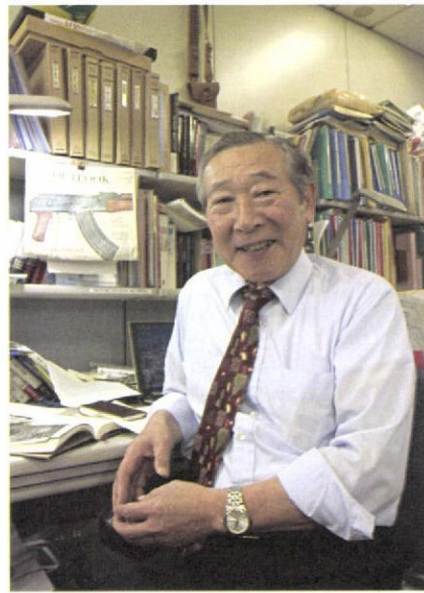


## 記者クラブ賞

私は64歳です。学者や評論家なら仕事盛りかもしれませんが、新聞記者としてはかなりいい歳です。年齢的には新聞記者のなれの果てといっ  
ていいでしょう。  
そんな「記者なれの果て」がこんな立派な賞をいただいているものだろうか。受賞決定のお知らせをいただいたとき、正直いつてとまどいまして。還暦をすぎて子どもができてしまったような、そんな恥ずかしさを感じたのです。  
新聞を見た友人知人から祝いの電話をもらいましたが、どうにも照れくさい。「いや、どうも、すみません」と赤くなっておりました。  
しかしお知らせから1カ月がたつて考えが変わりました。今では、胸を張って喜んでおります。  
考えがどう変わったというのか。私は記者になりたくて新聞社に入りました。世のほとんどの大工さんは、いい家を建てたくて大工さんになったに違いない。その人たちは、体が動くうちは大工をしていたいはずです。プロ野球の選手だってそうだと思います。横浜の工藤投手、大リーグに行った桑田投手。みんな野球を続

けていたのです。

40年間、記事を書き続けてきました。私にはそれ以外のことは考えられませんでした。いってみれば「生涯一記者」です。それを評価していただいたのだということに、遅まきながら気がついたのです。  
受賞の理由に「カラシニコフ」の連載記事があげられております。こ



編集委員室のデスクで

おります。それは私と、94年に受賞した船橋洋一記者なのです。  
したがって私には、インターネットを駆使してより広く情報を集め、優れた分析記事を書く、ということができません。そのため「カラシニコフ」130回の連載はすべて「現場に行き、人に会い、話を聞く」という作業の積み重ねでした。

れもうれしいことでした。

パソコンが大の苦手です。内輪の話で恐縮ですが、朝日新聞に自分の勤務表の入力すらできない者が2人

## 辺境報道

## 生涯一記者

## 松本 仁一

(朝日新聞編集委員)

した。「カラシニコフ」の主要な舞台もアフリカでした。  
アフリカは欧米メディアにとつては大きな舞台なのですが、日本の国際報道の中ではマイナーな、いってみれば「辺境」に位置します。今回の賞は、そんな辺境報道にも光を当ててくださいました。

「辺境」に関心を持つ若いジャーナリストが増えていきます。あまり金にならず、危険も多いのですが、彼らはそれでも辺境にこだわっています。私の受賞は、そういう若い人々にとつて大きな励みになるのではないかと思います。

恥ずかしがっている場合じゃない、大いに喜ぶべきだ。そう考え方が変わったのは、以上のような次第です。ありがとうございました。

まつもと・じんいち 1942年生まれ  
長野県出身 東京大学法学部卒 68年朝日新聞入社 82年ナイロビ支局長 90年中東総局長(カイロ駐在) 93年から編集委員 93年度ボーン・上田国際記者賞「アフリカで寝る」(朝日新聞社)で97年日本エッセイスト・クラブ賞 米同時多発テロ後の連載企画「テロリストの軌跡」アタを追う」などの報道で02年度日本新聞協会賞を受賞 主な著書に「カラシニコフ」「カラシニコフII」「アフリカを食べる」(いずれも朝日新聞社)「アパルトヘイトの白人たち」(すずさわ書店)など



## 2007年度 日本

歴代の日本記者クラブ賞の受賞者は私がジャーナリストとして仰ぎ見てきた方々ばかりで、私がその末席に名を連ねることができたのは夢のようです。

しかし、「功成り名を遂げた」記者が多い受賞者の列に私のような「発展途上」記者が選ばれたのは、物足りない業績を叱咤激励する意味も込められているでしょう。私を選んでいただいた日本記者クラブ賞の推薦・選考委員会、さらに理事会の皆さまのご期待に違わぬよう今後、精進していくつもりです。

ただ、中国報道の分野から日本記者クラブ賞に選ばれたことに、私は喜びとともに、いささかの自負も感じております。どの取材分野でも取材対象との距離を適正に取ることは、難しいことですが、中国報道は特にそれが困難だからです。

ご存じのように中国はいまだに共産党の専制体制が続いており、内外記者の取材、報道には厳しい制約が伴います。また「中国人の交渉術」として有名な、外国人の間に「古くからの友人」を作り出し、友好人士との人間関係を軸に外交、宣伝戦略

### 中国報道

## 不偏不党の精神

清水 美和

(中日新聞東京本社論説委員)

を組み立てていく巧みなやり方には定評があります。中国と付き合ってきた人々が「友好人士」の枠から、



北京郊外の農家で農民の話を聞く

中国問題というと、「親中」と「反中」の対立構造の中で語られることが多い、率直に言って、いっそどちらかの陣営に属してしまえば楽だろうと考えたこともありました。

日中の国力が拮抗し、それぞれの国でお互い対する反感が強まっている最近の情勢では、「親中」の人々からは「反中」のそしりを受け、「反中」の人々から「媚中」のレッテルを貼られる体験もしました。

私が評伝めいたことを書きました戦前の米イェール大学教授の朝河貫一博士は日露戦争後、日米関係の悪化を憂い米国にあって祖国に警告を発し続けた方です。

彼は「私が日本に向かって言う所は日本人多数の感情に反し(中略)米国に向かって私の言う所は、また甚だしく米国多数の人々の意見と反対している。かように私は不幸にもいづれの国民にも叱られねばならぬ」(拙著『驕る日本』と闘った

男」講談社刊)と嘆いています。

厳しい当時の日米関係と今の日中関係は異なり、偉人の朝河博士に自らをなぞらえては僭越に過ぎますが、現代の中国をめぐる言説も似たようなところがありはしないでしょうか。

こうした悩みを抱えながら続けてきた私のささやかな言論活動に「ジャーナリズムの信用と権威を高められたのは何よりの励みです。

今後、日本の言論状況、とりわけ中国や北朝鮮をめぐる言論の環境は、一層、厳しさを増すでしょう。しかし、こうした中で不偏不党、いかなる権力や圧力にも屈することなく言うべきを言う、賞の名に恥じない言論活動を微力ながら続けていくことをお誓いして、私の受賞の言葉としたいと思います。

しみず・よしかず 1953年生まれ  
愛知県出身 京都大学経済学部卒 77年  
中日新聞入社 東京本社社会部などを経  
て 89年香港特派員 91年北京特派員  
99年中国総局長 編集委員を経て06年  
から論説委員 『中国農民の反乱―昇竜の  
アキレス腱』(講談社)で第15回(03年)ア  
ジア・太平洋賞特別賞を受賞 主な著書  
に『中国はなぜ「反日」になったか』(文  
春新書) 『中国「新富人」支配』(講談社  
「中国が「反日」を捨てる日」(講談社+  
α新書) など





受賞者を紹介する滝鼻理事長



松本さんご一家 めぐみ夫人とお嬢さまの裕さん（右から） 宴の後ご家族でお祝いのディナーへ



「こんな小学校の入学式以来」 名古屋から86歳と82歳のご両親を呼んだ清水さん（左）長男和也さん（右から2人目）と甥の梅本雄太さんが祖母の車椅子係も

午後5時30分からの会員懇親会には193人が出席しました。松本仁一さん（朝日）と清水美和さん（東京）の受賞の弁（前ページのことは、プラス、アドリブ）に笑いとかけ声も——お二人のジャーナリスト・スピリッツに大きな拍手が送られました。



▲右から俵会員（元産経） 鈴木会員（元NHK） 村上会員（元朝日）



選考委員長を務めた毎日・朝比奈さん（右）と時事・岸田さん▶





滝鼻理事長の発声でお祝いの杯をあげる

写真上・4P. 右上 朝日新聞社提供



97年度クラブ賞受賞者の毎日・牧さんと日経・伊奈さん（右から）



推薦委員長の佐藤会員（右）にとっても美酒  
共同時代の仲間 秋山さん(中央) 小和口さんと



和食コーナーでは初夏の味覚「はも」が人気でした



深尾会員（元読売）と元中日の吉村さん 岡部さん  
（左から）



# 第70回 通常総会

5月24日(木)  
クラブ宴会会場

日本記者クラブの第70回総会(2007年度通常総会)は、出席法人会員36社(代理出席含む)、委任法人会員100社、計136社の出席をもって成立(定足数73社)、定款23条により、滝鼻卓雄理事長が議長になり開催された。

2006年度事業報告(前号既報)、同収支決算ならびに繰越収支差額処分(7ページ参照)を理事会案どおり承認したほか、日経CNBCの法人会員入会を了承した。  
続いて第18期役員への選任に移り、役員選出委員会の原案通り理事29人、監事3人を決定した。

この後、総会は一時休憩となり、新役員による理事会が別室で行われ、理事長に滝鼻卓雄氏(読売新聞)、副理事長に宇治敏彦氏(中日新聞)、石村英二郎氏(NHK)を互選。専務理事に岩崎玄

道事務局長を再任した。さらに総務、会員資格、企画、会報、施設運営の各委員会委員長を別記のように決めた。

総会の席上、本年度の日本記者クラブ賞の表彰式も行われ、松本仁一朝日新聞編集委員と清水美和中日新聞東京本社(東京新聞)論説委員に賞状と副賞としてプラチナ製の記念メダルが贈られた。

## 第18期役員 (2007.5~2009.5)

\*役職は5月24日現在

### ◇理事長(再)

滝鼻 卓雄 読売新聞社東京本社代表取締役社長  
長・編集主幹

### ◇副理事長(新)

宇治 敏彦 中日新聞社専務取締役東京本社  
(東京新聞)代表兼論説担当

### ◇副理事長(再)

石村 英二郎 日本放送協会理事・放送総局副  
総局長

### ◇専務理事(再)

岩崎 玄道 事務局長

### ◇理事・総務委員長(再)

朝比奈 豊 毎日新聞社常務取締役 主筆 編  
集担当 出版担当 デジタルメ  
ディア担当

### ◇理事・会員資格委員長(再)

喜多 恒雄 日本経済新聞社代表取締役専務経  
営企画・広報・リスク管理・コン  
プライアンス担当

### ◇理事・企画委員長(新)

船橋 洋一 朝日新聞社役員待遇編集委員(コ  
ラムニスト)

### ◇理事・会報委員長(再)

住田 良能 産経新聞社代表取締役社長

### ◇理事・施設運営委員長(再)

金平 茂紀 東京放送執行役員 報道局長

### ◇理事

竹田 保孝 共同通信社常務理事・編集総本部長  
岸田 郁弘 時事通信社常務取締役 財務・経  
理・マスメディア担当  
高橋 雅博 北海道新聞社東京支社長  
安川 健児 西日本新聞社東京支社長  
岩瀬 昭典 河北新報社東京支社長  
鶴山 潔人 北國新聞社東京支報道部長  
岡部 信夫 神戸新聞社東京支社長

### 小野寺 勲 岩手日報社取締役東京支社長

斎藤 正幸 福井新聞社東京支社長

熊坂 隆光 日本工業新聞社代表取締役社長兼  
大阪本社代表

島田 洋一 日本テレビ放送網取締役執行役員

小櫃真佐己 フジテレビジョン常務取締役

渡辺興二郎 テレビ朝日取締役

藤延 直道 テレビ東京取締役制作局長

金澤 一 朝日放送東京支社長

田中 敬美 ニッポン放送編成局長

福田 勝也 四国放送取締役東京支社長

鳥居 元吉 日本新聞協会理事・事務局長

玉川 寿夫 日本民間放送連盟専務理事

佐藤 嘉男 日本プレスセンター専務取締役

### ◇監事

中西 雄一 熊本日日新聞社取締役東京支社長  
東海 龍 北日本新聞社東京支社長  
丸木 素 アール・ケー・ビー毎日放送東京  
支社長



2006年度収支計算書

自 2006年4月1日  
至 2007年3月31日

科 目	予算額	決算額
<b>支出の部</b>		
1. 事業費	( 239,880,000)	( 223,582,024)
借室維持費	( 176,011,000)	( 175,822,842)
借室料	100,106,000	100,106,676
共益費	16,640,000	16,639,944
空調・光熱・水	9,265,000	9,076,222
ホール専用利用費	50,000,000	50,000,000
会議費	4,035,000	2,849,853
事業運営費	31,672,000	22,400,371
会報発行費	17,300,000	15,194,894
運営雑費	1,542,000	577,236
通信費	4,500,000	3,954,398
印刷費	3,560,000	2,515,800
交通費	1,260,000	266,630
2. 管理費	( 172,927,000)	( 168,938,003)
(1) 人件費	( 140,455,000)	( 141,458,125)
給与	81,043,000	81,735,268
賞与・諸手当	57,412,000	58,417,777
厚生費	2,000,000	1,305,080
(2) その他の管理費	( 32,472,000)	( 27,479,878)
クラブ管理費	23,124,000	20,714,037
機器備品費	1,500,000	880,217
消耗品費	3,500,000	2,401,975
事務委託費	3,436,000	2,910,144
事務雑費	912,000	573,505
3. 諸引当金への支出	( 50,000,000)	( 50,000,000)
(1) 退職準備積立預金	20,000,000	20,000,000
(2) 資産準備積立預金	20,000,000	20,000,000
(3) クラブ賞積立預金	10,000,000	10,000,000
4. 予備費	( 17,710,000)	( 0)
【一般会計支出計】	( 480,517,000)	( 442,520,027)
5. 特定積立預金への支出	( 240,000)	( 6,359,596)
(1) 増加賃料積立預金	132,000	377,771
(2) 特別積立預金	23,000	1,431,373
(3) クラブ賞積立預金	85,000	4,550,452
6. 諸積立金からの支出	( 5,000,000)	( 4,830,000)
(1) 資産準備積立預金	5,000,000	4,830,000
【特別会計支出計】	( 5,240,000)	( 11,189,596)
当期支出合計(C)	485,757,000	453,709,623
当期収支差額(A)-(C)	-30,000,000	7,294,653
次期繰越収支差額(B)-(C)	30,574,610	67,869,263

科 目	予算額	決算額
<b>収入の部</b>		
1. 会費収入	( 377,647,000)	( 377,801,700)
(1) プレス会員会費	( 319,013,000)	( 318,037,300)
法人会員会費	216,403,000	216,093,800
個人A会員会費	26,733,000	26,526,800
個人B会員会費	2,492,000	2,511,000
個人C会員会費	10,465,000	9,970,500
個人D会員会費	62,920,000	62,935,200
(2) 賛助会員会費	( 58,634,000)	( 59,764,400)
法人賛助会員会費	47,508,000	48,578,000
個人賛助会員会費	4,118,000	3,986,400
特別賛助会員会費	7,008,000	7,200,000
2. 事業収入	( 71,873,000)	( 70,648,316)
(1) 貸室収入	42,190,000	41,666,289
(2) 飲食売上割戻し収入	23,670,000	22,905,152
(3) 施設機器賃貸収入	6,013,000	6,076,875
3. 雑収入	( 997,000)	( 1,364,664)
(1) 預金受取利息		
(普通預金、退職、資産準備)	604,000	1,070,646
(2) 雑収入	393,000	294,018
【一般会計収入計】	( 450,517,000)	( 449,814,680)
4. 特定預金受取利息	( 240,000)	( 454,596)
(1) 増加賃料積立預金	132,000	377,771
(2) 特別積立預金	23,000	26,373
(3) クラブ賞積立預金	85,000	50,452
5. 入会金	( 0)	( 1,405,000)
6. 寄付金	( 0)	( 4,500,000)
7. 特定預金取崩収入	( 5,000,000)	( 4,830,000)
(1) 資産準備積立預金	5,000,000	4,830,000
【特別会計収入計】	( 5,240,000)	( 11,189,596)
当期収入合計(A)	455,757,000	461,004,276
前期繰越収支差額	60,574,610	60,574,610
収入合計(B)	516,331,610	521,578,886

次期繰り越し収支差額処分

2006年度決算の結果生じた次期繰り越し収支差額67,869,263円のうち、2,000万円を資産準備積立預金に、1,000万円を退職準備積立預金に、1,000万円を増加賃料積立預金にそれぞれ積み増し、27,869,263円を次期に繰り越す。



## 貸借対照表

2007年3月31日現在

科 目	金 額	
<b>I. 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金・預金	53,639,877	
未収入金	9,077,704	
立替金	9,906,125	
前払金	11,946,760	
仮払金	452,540	
流動資産合計		85,023,006
2. 固定資産		
内装設備	17,351,754	
什器備品	5,777,152	
敷金	32,271,109	
保証金	55,342,000	
退職準備積立預金	269,233,682	
資産準備積立預金	287,553,415	
増加賃料積立預金	121,416,201	
特別積立預金	71,782,845	
クラブ賞積立預金	102,509,895	
固定資産合計		963,238,053
資産合計		1,048,261,059
<b>II. 負債の部</b>		
1. 流動負債		
仮受金	2,462,200	
未払金	14,691,543	
流動負債合計		17,153,743
2. 固定負債		
退職準備積立金	269,233,682	
資産準備積立金	287,553,415	
増加賃料積立金	121,416,201	
特別積立金	71,782,845	
クラブ賞積立金	102,509,895	
固定負債合計		852,496,038
負債合計		869,649,781
<b>III. 正味財産の部</b>		
正味財産		178,611,278
(うち当期正味財産増減額)		(9,130,050)
負債及び正味財産合計		1,048,261,059

■ 会議報告 ■  
 第365回企画委員会

(5・8 宴会場)

司会をした委員からの行事報告の

△ 法人会員代表変更▽

日テレアクセスオン

(旧・NTV映像センター)

(新) 桜田 和之 代表取締役社長

(旧) 吾妻 光良

後、今後のゲスト候補や8月に開催

する記者研修会などについて意見交

換し、第17期の活動を総括して自由

討議を行った。

出席 宇治委員長、宮田、石井、橋

本、脇、長谷部、矢島、菅沼、長谷

川、田崎、飯野、影山、井田、和田、

芋原、廣瀬、中島、柴田の各委員。

## 第172回施設運営委員会

(5・10 大会議室)

3、4月のアラスカ売上と貸室利

用状況を事務局から報告した後、夏

の臨時措置としてことしは8月13日

(月)～18日(土)の1週間ラウン

ジを午後6時で閉室することを決定

した。

出席 金平委員長、高橋、上滝、加

藤、阿部、梅田、池浦、中村の各委

員。

## 第282回会報委員会

(5・14 シルバールーム)

5月号について意見交換した後、

6月号の編集について協議した。

## 第357回会員資格委員会

(5・15 小会議室)

新委員の森純一朝日新聞編集局長

補佐(旧・石井勤氏)を紹介した後、

6月1日付の会員入退会を審議し、

理事会に答申した。

出席 森、森嶋、石川、二藤部、今

田、工藤の各委員。

## 第440回理事会 (5・24 大会議室)

第18期の理事長、副理事長、専務

理事を互選し、総務、会員資格、企

画、会報、施設運営の各委員会委員

長を決定した。

出席 滝鼻理事長、宇治、石村副

理事長、岩崎専務理事、船橋、朝比

奈、住田、竹田、岸田、安川、岩瀬、

鶴山、岡部、小野寺、斎藤、熊坂、

金平、島田、渡辺、藤延、田中、佐

藤の各理事。中西、丸木の両監事。

## △ 寄贈書▽

政界 六〇年 松野頼三

「政界六〇年 松野頼三二刊行委員会

癒しの島、沖縄の真実(野里洋・元琉

球新報論説委員長著) 畠中茂男会員

羽原清雅会員



小杉 泰 やすし  
京都大学大学院教授

5・17(木)研究会「中東ベリシック」  
司会 中井康朗委員 出席 60人 (18)

▼イスラーム世界の3つのベクトル



小杉泰氏は、日本きつてのイスラーム思想史の泰斗である。その小杉氏がイスラームのいまを縦横に切っって見せてくれた。氏によれば、イスラーム世界は1967年の中東戦争のあと「第2次イスラーム復興」の時に入った。それは、モスク建設、貧者救済、巡礼の拡大など草の根のレベルのものから、革命的シリア派思想の勃興などいくつもの側面を見せて展開している。しかし見過ごしてはならないのは、そうした「イスラーム復興」の他に「ナシヨナリズム」と「西洋的近代化」を加えてあわせて3つのベクトルがいわば三つ巴で存在していることだという。「その典型をイラクのいまに見ることができ」。氏によれば、イラクの現政権は「イス

ラーム復興」に立つが（それにクルド民族主義が連帯する）、「ナシヨナリズム」に依拠してサダム・フセイン残存分子が活動し、また「西洋的近代化」ベクトルの親米派も存在する、という。

ここにいたつての分析は、ブッシュ政権のイラク戦略批判に及ぶ。「米国の政策はイラクにこの3つのベクトルが存在することを無視した、あるいは見えていなかったのか?」。

さらに、「イラクのシリア派とスンナ派の宗派対立は、宗教の利権集団化によるところが大きく、それをもたらしたのは米国だった」「イスラーム世界では9・11事件のあと過激派の勢いは衰えをみせていた。しかし米国のイラク戦争とイラク占領は、占領への抵抗という大義をつくり、過激派の息を吹き返させた」。

小杉氏は、「イスラーム帝国のジハード」(講談社)のあとがきで「現代を理解するための知の営為がいまこそ必要と説く編集者に共感して執筆した」と書いていた。その言葉が私の胸に残っていた。氏の知の営為に魅惑された1時間半だった。

NHK出身

寺内 正義

塩野 七生 ななみ  
作家

5・24(木)総会記念講演「ローマ人の物語」を書き終えて  
司会 滝鼻卓雄理事長 宇治敏彦副理事長 出席 35人

▼ローマ人の知恵

塩野七生さんが1992年から書いてきた「ローマ人の物語」が昨年、完結した。全15巻、4000字詰め原稿用紙で1万枚強。万年筆5本を書きつぶしたという。

大著を書き上げて、塩野さんは当分机の前に座らないと宣言したが、1カ月であきて、また本を読み始めた。

その1冊、英国の学者の書いた十字軍の歴史によると、神が望まれた戦争、つまり西欧の十字軍思想は18世紀に流行遅れになり、代わって「正しい戦争」が戦争の大義名分になったという。だから正しい戦争か、正しくない戦争かという分類の仕方はたかだかこの200年のものにすぎない。この「正しい戦争」観は十字軍思想の延長で、西欧人の意識のなかに脈々と息づいていると塩野さんは考える。



念は存在しなかった。おかげで塩野さんは、東京裁判や靖国神社問題を気にしないでもよかったが、そうもいかない。十字軍思想に無縁の日本人として何か言っておく必要があると塩野さんは言う。

カエサルは戦争しても、統治する必要上、なるべく敵兵を殺さずにすませた。ローマ人の知恵である。もし米国にローマ人の知恵のかけらでもあったら、イラクの悲惨な事態は避けられただろう。米国は十字軍思想と正しい戦争によりかかり、その先にあるローマを見ようとしないかった。

歴史の女神クリオは、9人の姉妹のうち一番内気で、いつも顔の半分を着衣で隠し、信頼できる相手にだけそつと顔を見せるといふ。どうもクリオは威張ってばかりいる米国にそつぽを向いていたらしい。ローマが見えないわけだ。

毎日新聞特別顧問

諏訪 正人

翻って古代ローマ。そこには正しい戦争とか正しくない戦争という概





長妻氏

そんな声を丹念に集めた。当初、大した問題ではない

松本 剛明 (まつもと 剛明) (なかつま) (あきら)  
民主党政調会長  
同政調会長代理

5・28(月) 記者会見 司会  
田崎史郎委員 出席 55人

年金旋風、参院選に再び?

一昨年の郵政選挙以降、民主党は湿っぽくなつたと感じていた。与党が衆院の3分の2議席を占めるのだから、それも致し方なかった。しかし参院選を問近に控えたこの時期、輝きを取り戻す可能性がみえてきた。3年前の前回参院選で吹いた年金旋風を再び巻き起こす予感だ。きっかけは長妻昭衆院議員が調べ上げた「消えた年金」。過去の保険料納付記録について、誰の年金かを社会保険庁が把握していない件数が延べ5千万に達する実態を明らかにした。



松本氏

いと高をくくっていた政府。与党はテレビのワイドショーがこの問題を繰り返し始めると、突貫で対策案を出した。有権者に身近な政策を与野党が競い合うのは望ましい。その恩恵は国民に広く及ぶ。久しぶりの参院選は閣僚の年金未納問題などがたたり、自民党が敗北した。今回はどうか。

年金改革は党派を超えて議論するのがいいと松本剛明政調会長は語った。たしかに、社保庁の再生は不可欠だが、その体たらくをあげつらうのは年金改革の本質ではなからう。消費税を最低保障年金の財源に充てる、アメリカ型の歳入庁創設をめざす。この主張をどういう道筋で実現させるのか。旋風を巻き起こす鍵は、年金改革の本質を社会のすみずみに浸透させられるか否かにかかっている。

日本経済新聞編集委員兼論説委員  
大林 尚

むらかみ 村上 陽一郎 (むらかみ よういちろう)  
国際基督教大学教授

5・30(水) 研究会「文明史としてみた科学報道50年」 司会 柴田鉄治前委員 出席 81人

20世紀後半に科学が「変質」



50年間の具体的な事例を一覧表にまとめたうえで、村上教授はこう総括した。

以下、村上講義のサマリー。ひとくちに科学技術といっても、科学と技術は異なる道を経て発展してきた。技術は常に社会とともにあり、高級技術者にせよ職人にせよ、組織化された職能団体の外に必ずクライアントが存在した。たとえば、建築家と施主の関係のように。そして、クライアントに対する責務があった。

それに対して、19世紀の後半に誕生した科学者集団は、自らと仲間だけの共同体で自己完結しており、クライアントはなく、行動規範は自己と同僚に対する責任のみであった。外部社会とのつながりは、芸術活動などへの政府・財団などからの支援と同じ種類のものにすぎなかった。ところが、20世紀の後半から科学が大きく変質したのである。科学の

成果が社会を動かす技術に取り込まれ、科学者にクライアントが生まれたのだ。

ノーベル賞は20世紀とともに始まった褒賞制度だが、たとえば、物理学で見た場合、20世紀の前半は、アインシュタインやプランクから純粋理論の大家がずらりと並んでいた。だれその方程式、だれその常数などと、名前付で呼ばれることが最大の名誉であり褒賞である時代が続いた。

それに対して20世紀の途中からは、科学者のカロザスがデュボン社に入ってナイロンを開発したようにまず産業界が、次いで原爆開発のマンハッタン計画のように国家・政府が、科学者のクライアントになったため、科学が様変わりした。

科学者に新たな責任が生じたこの変質に、科学ジャーナリズムは対応しきれているかどうか。専門家と非専門家をつなぐ調整役は必要であり、科学者とクライアントと一般生活者と、その三つ巴の中で「第三者」としての科学ジャーナリズムに期待するものは大きい。

朝日新聞出身 柴田 鉄治





佐々木 智弘 アジア経済研究所  
地域研究センター副主任研究員

5・31(木)研究会「中国」  
司会 中島宏前委員 出席 83人

▼党総書記3期の可能性も

研究会の終わり近くになって大胆な予測が飛び出した。中国共産党の胡錦濤総書記が、今秋開かれる第17回党大会で再任されるのは当然として、さらに「5年後の第18回大会でもそのポストに留まるだろう」というものだ。

まず「政治報告と人事のふたつが党大会の焦点」というオーソドックスな前置きで始まった。

中国共産党指導者を派閥・年齢・出身母体などさまざまな角度から分析した9種類のリストを含む資料が配られ、若手研究者らしい歯切れのいい説明が進められた。

その要点を示すと、政治的民主化など本質的な議論を抜いた「大衆迎合的なスローガン政治」だという胡錦濤政権への辛口の評価。

ただ、そこにも、温家宝首相の論文に示されたような「公正」への志向があり、それによって江沢民政権との差別化を図っているというリアルな認識も紹介された。

胡錦濤政権は、江沢民政権書記派の中共上海市委員会書記をバツサリ解任して注目された。しかし、佐々木氏によれば、江沢民政権書記が当時の中共北京市委書記に下した党籍剥奪処分までには至っていない。そこから、党大会の焦点の人事について、前政権から継承した指導部の「総入れ替えを図りたい」と見る。

冒頭に紹介した大胆な予測については「国家主席は2期を超えない」と憲法に規定されているが」との質問が出た。それに対して佐々木氏は「党総書記についてはそうした内規はない」と答え、現在は兼任している国家主席と党総書記ポストの分担を図る可能性を示唆した。

胡錦濤政権では「官僚的な人事異動がルーラル化し、サブライズ人事はできない」という自身の分析とも矛盾する予測だが、次の党大会で一気に脱皮するというのか。

読売新聞出身

丹藤 佳紀

■「平和憲法」も「美しい国」も不合格

民衆は抽象的なことをいわれると迷うが、具体的なことは正確に判断する(マキアヴェッリ)。時代を越えたお弟子さんの一人ないしは恋人・塩野七生さんの信念は政治も政治家も具体的にでなければいけないというもの。政治スローガンも英訳して通用しないのはダメ▼例えばわが平和憲法とか、わが美しい国といえ

ば、他国はそうでないといっていることになってしまふ。国際競争力を持たない表現だ、と▼かつてある有力政治家にいま必要なのは何かと聞かれた時、税制改革と答えた。首相にならなかつたその政治家は夢がない、と。が、塩野さんはいまでもこの日本の元気のなさを一新するのは、大胆な税制改革かも、と。(女)

■プレスクラブは旅先でのオアシス

プライベートや取材で、ワシントン、キャンベラ、マニラ、ソウルを訪ねた際には、姉妹クラブを訪ねてみてはいかがでしょう。

前号で鈴木博信会員(元NHK)が、米国での「クラブ会員証」の威力・重宝さを寄稿されましたが、米国以外では左記のところと姉妹関係を結んでいます。地元情報の確認などでも役立つはずです。

たいていの国の場合、姉妹関係がなくとも、会員証をみせれば同業・同僚として歓迎してくれると聞きます。ニュースバリューはローカルに本質的にしぼられますが、一般にそれを書くジャーナリスト気質には国境がないからです。

どこでもプレスクラブは同業者のオアシスです。

姉妹クラブ

アメリカ・ワシントン  
National Press Club  
529 14th Street, NW,  
Washington, D.C. 20045 U.S.A.  
Tel:1-202-662-7500 <http://npc.press.org/>

オーストラリア・キャンベラ  
National Press Club  
16 National Circuit, Barton, Canberra,  
Australia  
Tel:61-2-6121-2199 Fax:61-2-6121-2188  
e-mail:npc@npc.org.au  
<http://www.npc.org.au/>

フィリピン・マニラ  
National Press Club of The Philippines  
National Press Club Building  
1 Magallanes Drive, Intramuros,  
Manila, Philippines  
Tel:63-2-301-0521 Fax:63-2-521-9300

韓国・ソウル  
Korea Press Center  
25, Taeyongro-1 ka, Chung-gu,  
Seoul, Korea, 100  
Tel:82-2-2001-7754 Fax:82-2-2001-7760  
<http://www.kpfor.kr/>



# 胃袋買われてサイゴン特派員 —反ベトコンの頭目に好かれる—

林 雄一郎



を見せてもらって記事をまとめていた。これは臨時の短期の滞在なら許されるが、常駐記者が毎日、外通からの「頂き」だけで書くわけにはいかない。

後に作家として

て文名を馳せる日野啓三氏が読売特派員として同じ頃、着任していた。2人で自力で書くこうと話し合い、米大使館が毎日開く定例の記者会見に出ることにした。だが早口の米語に、米軍用語が混じるのに、完全に手上げ、われわれ2人の他に会見に顔を出す日本人記者はおらず、相談相手もない。

よほど情けない顔をしていたのだろう。週刊のUSニューズ&ワールドリポート誌の若い米人記者が声をかけてくれた。聞けば夫人が日本人とか。彼が毎日、会見後に内容を教えてくれるようになった。大いに助かったが、スピードは外国通信社電にまったくかなわない。

そこで独自の記事のタネとして、ベトナム側の政治、特に反政府色を出していた仏教徒の運動などを書く

1964年10月、突然、サイゴン（現ホーチミン）特派員を命ずとの辞令が降ってきた。この2カ月前の8月、米駆逐艦がトンキン湾でベトナム側から攻撃されるといってトンキン湾事件が起きていた（事件はデッチ上げだったことが後に判明）。状況は確かに緊迫、各社は一斉に南ベトナムの首都サイゴンの支局開設に走った。だが社命は私にとつては文字通りの晴天の霹靂だった。

私は共同に入社してすぐ外信部、2年後に科学部、そして外信に戻って海外株式や商品、穀物相場を扱う外国経済班勤務、そこへサイゴン行きが来たのだ。私はベトナム語はおろかベトナムの植民地母語フランス語もできず、インドシナ半島の情勢に触れたことはない。これまでやってきた仕事とはどこにもつながりが

ない。大学での専攻語学がインド語だったから、それをインドシナと間違えたのでは、と思った。しかし私の疑問に外信部長いわく、「戦場になるかもしれない南洋の国だ。そこに支局を新規に開くんだけ。胃袋の丈夫なヤツがいいんだ」。脳ミソの中身など問題じゃないという話に返す言葉もなく承知した。

## ■「仏教徒デモ」にぶら下がり

前途の多難を思いつつサイゴン空港に降り立つ。西も東も分からない。どこで何を取材すればいいのか、見当もつかない。これまで各社は香港やバンコクの特派員を短期間送り込んでカバーしてきた。彼らは本社で契約している外国通信社のサイゴン支局で状況聞き、送信済みの電文

ことにした。こうした記事は米英の記者たちはベトナム人の助手に任せていた。大きな記事になりそうなきは、米大使館サイドがブリーフィングを行っていた。米国人はベトナム政治の取材には出てこないことが多かったのである。

仏教徒の運動は統一仏教教会が東ねていた。しかし仏教徒たちは、当時、英語ができなかった。仲良く書いた英字紙サイゴン・デリーニューズの編集局で、仏教徒の行動スケジュールを聞き、そのデモ行進に付いて歩くことにした。数日すると、カメラを下げたあの男は何者だと、仏教徒デモ隊の中で問題になったらしい。統一仏教教会幹部の英語の分かる僧侶が会いに来た。

私が日本人のジャーナリストで、スパイではないらしいと分かると、僧侶たちはいろいろなことを教えてくれた。仏教徒側の考え方、運動の戦略、行動の目標や日程が分かってきた。統一仏教教会は、様々の考えがあつて一本ではないらしかつたが、共通の色はナシヨナリズム。軍部の中で、ナシヨナリズムを色濃く持つ中部の出身者に、仏教教会と関係のある人が多かった。中部に勢力を張る大越（ダイベト）党は、国粋主義的右翼で反米の色があり、仏教



教会やベトナム政府軍の一部将軍と関係があった。

1965年1月末、南ベトナムの最初の文民政府チャン・パンフォン内閣を軍の圧力で解体させるクーデターが起きたが、仏教徒や大越党に取材ソースができた私は、この動きをスクープすることができた。仏教徒デモに毎日、付いて歩いた成果だった。

### ■ハトキ氏の地下武装組織

このクーデターするとき、将軍たちと文民政府の秘密交渉の詳細、軍や政府側の行動スケジュールなどの詳細を事前に打電できたが、そのわけは、文民政府と将軍たちの折衝で窓口となっていた大統領府官房長が大越党のハトキ党首に近く、折衝の一部始終をハトキ氏に伝え、それをハトキ氏がすぐに私に教えてくれたからである。

ハトキは私にとっても好意的だった。テト(旧正月)には私を自宅に招き、ベトナムのお節料理をふるまってくれた。ベトナム政情についての取材には昼夜なしに応じてくれた。この好意が、ただの好意ではなく、政治的な意図があったことが、65年7月、東京に帰任することが決

まったところで分かる。

ハトキは私に帰国命令が出たと聞くと、自分の反ベトコン(南ベトナム民族解放戦線)地下組織を見せたと言ってきた。大越党は反仏民族闘争を行ってきた国粹主義的ナショナリストの集団である。その流れの中部大越党を、ハトキは革命的大越党と改名して率いていた。地盤は中部のユエ(フエ)から南北ベトナム国境に接するクアンチ省まで、そこにハトキは村々を回り政治心理作戦を行う。政治的レンジャー部隊を2個大隊、配置していた。

資金は米大使館を通さずUSOM(米経済援助委員会)から直接出ていた。ハトキ氏は、ベトコンに対抗する唯一のベトナム人の地下武装組織だと豪語していた。

ユエへの出発の直前、大越党の青年から、ユエ空港でタラップを降りるとき左手に英字紙デリーニユースを持っていくことという指令が入った。その通りタラップを降りると、青年が寄ってきて、空港ビルを通らずに外に連れ出す。待機していた車で、ユエ市を流れるフォン川の岸辺に建築中のホテルの一室に入る。夕闇を待って小舟で川を渡る。曲がりくねった小路を行くと一軒の洋品店。中に入ると、天井からハシゴが

降りてくる。昇ると中2階。中央の大テーブルにベトナム料理の大皿が並び、20人近い男が座っていた。ユエ周辺の地下の幹部だそう、彼らが地下活動状況を説明してくれる。

乾杯のとき、グラスを上げたところで驚いた。サイゴンで毎日、飲み歩いていたデリーニユース紙の若い米人記者がテーブルの向こうで笑顔で会釈していたからである。後でベトナム人に聞くと、CIAだという。

### ■武器購入の仲介依頼

ユエ周辺の村を見て回った後、北の省都クワンチを訪れたが、ここでも、ビックリすることが待っていた。省長に会うと、日本の軍人がゲリラ戦を見に来ているというのである。

連れてこられた日本人は、私を一日見るなり、床に手つき土下座して「書かないでほしい」と懇願した。制服を着て、ローマ字で「田中」とあるプレートをつけている。省長によれば旭川から来た日本の将校だという。だが、本人は一切、答えず、書かないでくれの一点張り。会いたという日本人が来ているといわれて来たのだが、記者とは思わなかったと泣き言を言う。

結局、すぐには記事にしないと約

束した。帰国後、調べたが、そんな人はどこにもいなかった。いまだに分からない。

ユエから戻ったら、すぐ帰国する予定だった。その帰国の日の早朝、人の気配にはっと目を開けると、蚊帳越しに上から私をのぞき込んでいる顔があった。飛び起きると、ハトキ氏だった。頼みがあるという。「日本の右翼と連絡をつけたい。大越党として武器を買いたいのだ。紹介してくれ」と言う。ユエの地下組織招待はこのためだったのかと気がついた。

日本では国法で武器輸出が禁止されていることを説明、戦前のような右翼はいないと説いたが、頼むを繰り返すばかり。帰国して関係方面にあたってみると約束して、ようやく帰ってもらったが、もちろん日本ではとてもムリな話だったから、不義理をする他はなかった。

その後、ベトナム戦争がアメリカの戦争となり、東郷元帥に心酔するハトキの国粋的アジア主義は完全に出番を失ったのだった。

はやし・ゆういちろう会員 1934年生まれ 56年共同通信入社 サイゴン ワシントン支局 外信部長 国際局長 90年論説委員長 92年編集局長 96年編集顧問 98年退社



サルコジ大統領

## メディア・トップとの幅広い交友

▼島崎 雅夫  
(読売新聞社)

スポットライトを浴びたニコラ・サルコジ氏(52)が演説で、「変革」を訴える。会場では、サルコジ氏の功績を訴える映像が写され、支持者が「サルコ」を大声で連呼する。サルコジ氏の知己の多さを反映して、ロック歌手のジョニー・ハリデー氏や俳優のジャン・レノ氏らが応援に次々と駆けつけた。

フランス大統領に当選したサルコジ氏が一連の選挙戦で繰り広げたの



セシリア夫人と勝利を祝うサルコジ氏＝パリ市内コンコルド広場(5.6)  
中村光一読売新聞記者撮影

は、さながらメディアを意識した米  
国流の派手な演出に感じられた。

仏では、選挙資金は、決選投票に残った候補者の場合、2070万ユーロ(約33億1200万円)に限定される。2004年の米大統領選で、2人の主要候補が約7億ドル(約854億円)を使ったのと比べると、仏の選挙戦規模は小さい。だが、プロの記者を多数、陣営で登用、メディアを重視した選挙戦で、大統領に登り詰めたサルコジ氏は、米英型の市場主義経済促進などの新しい訴えに加え、新しい政治家の到来をさらに印象づけるものにも思えた。

## ■ 巧妙な掌握戦術

大統領がメディアの重要性に注目したのは1993年、市長を務めていたパリ近郊・ヌイイ市で

発生した事件。幼稚園児を人質立てこもった犯人と直接交渉し、事件を解決した。幼稚園児を抱いて園外に出てきたサルコジ氏をテレビカメラはとらえ、国民はその行動力を賞賛した。

仏政界は長年、国立行政学院(ENAN)などを卒業したエリートが支配してきた。大卒で弁護士ながら、その層に参画していなかったサルコジ氏はメディア戦略で、劣勢を跳ね返したと言える。庶民派として市民の要求を吸い上げ、メディアを通じて、その実績を国民に示す。内相時代には犯罪数減少や不法移民追放数をメディアに示し、功績をアピール。財務相時代には主要スーパーに自社製品の2-3%引き下げを要求、消費者の購買力を促し、経済成長率を押し上げた。巧妙さが目立った。

「サルコジ氏のメディア掌握戦術には3つの過程がある」と、メッツ大学のメルシエ教授は言う。高級住宅街のヌイイ市の市長として、同市に住むメディア界のトップとのきずなを深めた。仏版経団連・フランス企業運動の幹部などを務めた兄弟を通じて、関係を強化した。そして、好機をとらえる能力を発揮、仏メディア界の大半のトップは自分の長年の友人という構図を完成させた。

## ■ 「圧力」を警戒する声明も

ただ、サルコジ大統領のメディア支配は波紋も呼び始めた。日曜紙ジュルナル・デュ・ディマンシュは、サルコジ氏のセシリア夫人が決選投票で棄権したことをつかみながら報道しなかった。同紙は、メディア大手ラガルドール・グループに属し、トップのラガルドール氏はサルコジ大統領と親しい。同紙では圧力を証言する職員もおり、国際ジャーナリスト団体「国境なき記者団」は、「圧力への警戒」を訴える声明を発表。同グループ傘下の週刊誌パリ・マツチや女性誌エルも「報道の独立保証」を求めた。

昨年には、セシリア夫人と交際の男性の写真が掲載したパリ・マツチ誌の編集長が解任された。大統領選後、選挙参謀の一人が、大統領と親しいブイグ氏支配下の大手民放テレビTF1の幹部に就いた。

組閣や労働市場改革、外国訪問で精力的に動く大統領には好感が持てる。だが、大統領とメディア界トップの蜜月が予想される中、大統領の独走をチェックするメディアの役割も一層高まっていることも痛感する。しまさき・まさお 1981年入社、ブダペスト・ウィーン・ブリュッセル支局などを経て、04年からパリ支局長



## ■公職選挙

## 立候補時点で会員資格失う

7月の参院選への立候補表明や候補擁立が頻繁にニュースとして登場しています。会員が公職選挙に立候補した

場合の会員資格については、「理事会決定」に基づき、次のように定められています。

「当クラブ会員が、国会議員、地方公共団体の長および議会議員の選挙に

立候補した場合は、会員資格を失うものとす。ただし、名誉会員の場合は、

立候補の時点で会員資格を一時停止し、当選しないことが判明した時点または公職を退任した時点で、会員資格を回

復するものとする」(第62回理事会

83・4・28)

各社において立候補者や当選者の経歴を紹介される際は、上記の点をご留意願います。

## リレー エッセー

## 甲子園②



担当したので仲良しになった。甲子園便りと称して出場期間中、試合のない日も毎日、甲子園から千葉版に記事を送った。大事な試合の当日朝の新聞で、前夜監督と一杯やり行なって作戦を練った話をリポートしたことがあった。

ところがその日負けてしまった。

そしたら酒なんか飲んでるから負け

われていた)殺されて埋められて、

その犯人捜しで社会部から支局の先輩河内記者が舞い戻って常駐し、支局員総がかりでこの事件に取り組んだ。半年がかりだった。

後に冤罪として無罪になり、釈放されてからやはり別の殺人を犯した

小野悦男の最初の逮捕が、その時毎日新聞千葉支局の大特ダネとなつた。稀代の連続殺

## 編集局長賞の陰に咲く

## ▼菊池 哲郎

人鬼逮捕で、編集局長賞が河内記者と支局全員に出た。

ただし除く私一人。私は警察向き

でなかった。だから、この間事件取材から外れ、日々地味に県版を書くことに専念した。

結果的にはおかげで徹底的朝日新聞ひきだった友納さんを翻意させるのに成功し、知事公舎に私専用の部屋を確保、勝手に泊まり込むまでに変身し、県版のネタ探し程度に苦労はしなくなった。

が、いくらなんでも一人だけ賞から漏れて受賞に喜ぶ支局内で味わったやるせなさ、若い身空で人生の因果を心に刻ませるものとなった。以来私は、どんな賞でもこの世にある賞はすべて心にひっかかる癖がついた。

「だが」である。その時千葉の印西署にほとんど住み込んで取材していた鶴岡記者(現・水と緑の地球環境本部事務局長)に、この欄を書くため、ちよこつと事件の事実確認をした。するとなんと、そんなこと一言も尋ねないのに、当時の高橋支局長も朝井次長も「お前らが賞をとれたのも菊池が毎日、県版を埋めてくれたからだぞ」と、そのときしつこく言われていたのだそう。

私はそんなこと35年間ちつとも知らなかった。初めて知っていま涙している。

(きくちてつろう 毎日新聞取締役)

昭和46、49年ごろだから初めての赴任地・千葉には習志野に掛布、成東に鈴木孝政、銚子に土屋、篠塚なんかがいる、関東大会になると横浜の永川や作新の江川がやってきたりでスターの多い時代だった。江川の控えて大橋というアンダーローのいい投手がいた。練習時に打席に立たせてもらったが、恐ろしいスピードで立っていられたもんじゃなかった。江川がいなかったら彼がプロでいい投手になったかもな、なんて人生の運不運を実感した最初だったかもしれない。

当時銚子商業には有名な斉藤監督がいらして、春夏合計4、5回



### 石見銀山遺跡

## 巻き返しはかる 世界遺産への挑戦

▶引野 道生  
(山陰中央新報社)

「重いなあ……。涙が出るよ。でもこれからの正念場。大田市民はあきらめんよ」――島根県の中央に位置する大田市の石見銀山遺跡が5月12日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関である国際記念物遺跡会議（イコモス）の評価報告で、「登録延期」勧告を受けたことが発表された。

学術審査の段階ながら、価値基準について大幅な見直しを迫る厳しい内容となり、地元には衝撃が走ったが、

「登録延期」は四種類の評価のうち登録が適当とする「登録」、今年度の登録には足りない面がある「情報照会」に次ぐ3番目の勧告。世界遺産として価値証明が不十分とした。

日本政府は昨年1月、同遺跡の推薦書をユネスコに提出。政府がこれまで推薦した世界文化遺産候補10カ所はいずれも「登録」の評価を受け、1度の世界遺産委員会で合格してきただけに、今回は政府も未体験の事態となった。背景には、世界文化遺産の審査をめぐるハードルの高まりがある。合格率が2004年の81%から06年は65%と急落。644件に



石見銀山遺跡の岩盤遺構に見入る近藤誠一大使（左から2人目）5.28 大田市大森町

膨らんだ文化遺産を抑制したいユネスコの事情がある。

しかし、文化庁と島根県、大田市は11年の歳月と県、市で33億円をかけ同遺跡の遺産登録を目指してきただけに、文化遺産としての価値で自信は揺るがない。

石見銀山は戦国時代後期、日本の貴金属鉱山の先駆けとして開発。国内で初めて、朝鮮半島から銀精錬のハイテク・灰吹き法を導入し、石見ではぐくまれた技術が、新潟の佐渡や兵庫の生野などに伝わり、日本を世界に冠たる銀産出国に押し上げた。

石見銀山の存在は大航海時代の16世紀、ポルトガル人が作った日本の古地図にも記され、石見銀が用いられ、活況を呈した東アジアの国際貿易ネットワークにポルトガル人や中国人を引き寄せた。石見銀山調査整備委員長の田中琢・元奈良国立文化財研究所長は「推薦書をしっかり読めば、あんな結果にならない。きちんと評価されていない」と反論する。

島根県は巻き返しに素早く動いた。今春の知事選で初当選した溝口善兵衛知事は「諮問機関



#### 一口メモ 大田市

人口は4万1129人（5月1日現在）。国立公園・三瓶山や踏むと「キユッ、キユッ」と音がする鳴り砂の琴ヶ浜、大きな縄文時代の遺跡、中心地と結びつく三瓶山と精錬が行われた仙ノ山、2つの町と2つの港を有する銀山本体と、2つの町と2つの港を有する銀山を積み出した2つの街、戦国武将が銀山をめぐりた山城などを一帯とし、世界文化遺産登録を目指す。このうち、石見銀山遺跡は、今年からガイド

取材にまい進したい。

ひきの・みちお 1982年入社  
本社報道部 東京支社などを経て 2005年から大田支局長

の報告で決定ではなく、世界的な普遍的価値は変わらない」と断言。

ユネスコに反論を含む意見書を提出する方針を決め、官僚時代の人脈を生かしパリのユネスコ日本政府代表部でトップを担う近藤誠一特命全権大使を急きよろ引き、5月28日に現地視察が実現。近藤大使も「世界遺産として誇れる価値があると確信した」とし、世界遺産委員会を構成する20カ国に対し外交活動に最善を尽くす決意を表明した。

石見銀山の地元大田市大森町には、住民が町並み保存に取り組んだ半世紀に及ぶ実践と誇りがある。ニューゼーランドで開催される世界遺産委員会まで2週間。町民の熱意を胸に



久しぶりに「軍人勅諭」の五箇条を聞く。今でもすらすら言える。原作・脚本・証言・新藤兼人、監督・山本保博の映画「陸に上った軍艦」で、しごかれる新兵さんが必死で唱えるシーンであった。32歳で呉海軍団に二等水兵として召集、宝塚海軍航空隊に配属された新藤さんの戦争体験の映画である。

おかあが  
陸に上った軍艦



同じ頃、18歳で軍の学校に学んだ私には身につまされるシーンが少なくなかった。  
よく殴られる場面が出てくる。公園で家族と食事をしている最中に欠礼したとって公衆の目の前で拳骨が飛ぶ。私の同期生は洗濯をしている時、後ろを通りかかった2年生に敬礼をしなかったというので殴られ

ている。

挺進切り込みの際、前進を後退と見せかけるため靴を前と踵を逆に履かせて訓練させる場面が出てくる。私たちもよく西富士演習場の樹海で挺進切り込みの夜間演習をやらされた。ある時私はその演習中に指揮刀を紛失、大目玉を食らったのを思い出した。滑稽な新兵さんらの姿を見て私には笑えなかった。

軍隊という組織の不条理

粗末な防空壕の中でB29の空襲に耐えた時のことを新藤さんは証言する。「しゆるしゆるという爆弾の空気を引き裂く音が拡大し、嗚呼、終わるかと思う瞬間、何をよりどころとし、何にしがみついたらいのかと思った。天皇陛下万歳もふさわしくなかった。お母さんと叫ぶのも作理事に思われた。結局あーっと息をつめるよりほかなかった」  
私も日頃から「死」を考えた。死は怖かった。最後は「責任感」に落ち着いた。映画は軍隊という組織の不条理を描くが、弱兵の目線ではなく人間新藤の目線である。多くの名作を生んだ映画人新藤の目線以外のなものでもなかった。

毎日新聞出身 牧内 節男

ユーラシア観察60年

木村 明生  
(朝日新聞出身)

19歳で当時の大阪外国語学校(現大阪外大)に入ってロシア語を学んだ私は、その後京大を経て新聞記者になり、さらに大学教授やフリージャーナリストとして、80歳を越えた現在までロシアを中心に広くユーラシア各国を歩き回ってきた。足跡はストックホルムからウラジウオストーク、シンガポールからヤクーツクに及んだ。その体験をまとめて少数自費出版したのが本書である。初めて書いた裏話がミソだ。幸い近く商業出版の運びになりそうだ。

権力の病室―大平総理最期の14日間

国正 武重  
(朝日新聞出身)

1980(昭和55)年、大平正芳首相(当時70歳)が急死してから、今年6月12日の命日で満27年を迎える。現職の首相が死去したのは戦後初めてのことで、国内的にも、国際的にも衝撃を与えた。

本書は、大平首相が80年5月30日深夜、東京・虎の門病院に入院して

マイBOOK  
マイPR

から死去するまでのドキュメントを軸にまとめたもので「政治と権力」の実相を浮き彫りにした。「器」が小さくなり、人材も「枯渴」した今日の政治状況の対極を意識した。  
(文藝春秋 1750円)

人物で綴る労働運動一世紀

山崎 光平  
(毎日新聞出身)

日本で近代的労働組合運動が始められたのは、1897(明治30)年高野房太郎が労働組合期成会を結成したところからとされる。明治初期から繊維や炭鉱などで労働争議が多発していたが、この会とその指導を受けて結成された東京鐵工組合の運動からであった。期成会は事実上の機関紙として「労働世界」を発行、片山潜がその責任者となった。それから100年、本書はこの1世紀を振り返る壮大な企画で、時々の政治・経済情勢とともに大まかな動きをまとめた「読物」である。

(労働問題研究会議 21000円)  
会員の皆さんの新刊書を紹介しています。自著の狙いやポイントを2000字程度でおまとめいただき、事務局の本庄までお送りください。



## 情報発信

クラブ施設では会員による各種の会合が行われています。企業や大使館などの賛助会員も記者発表の場としてクラブを利用しています。

## ■井上渥子さんご苦勞さん会

東商の記者クラブに長年務めた井上渥子さんが定年で退職。同クラブを担当した各社の記者たち約50人が集まり、送る会を開催した。(5. 8 宴会場)

## ■IWC説明会

米アンカレッジで開催された国際捕鯨委員会(IWC)総会(5. 28~31)を前に、日本政府代表の森本稔氏と日本捕鯨協会会長の中島圭一氏が日本側の立場を説明した。(5. 14 大会議室)

照会先: 水産ジャーナリストの会事務局 Tel: 042-462-7164

日本捕鯨協会 <http://www.whaling.jp/>

## ■安倍晋太郎氏をしのび、安倍首相を囲むプレスの会

安倍晋太郎元外相が死去して16年。当時の担当記者たちがしのぶ会を命日に開催している。総理大臣として初出席した安倍晋三首相は「父は33年間議員を務め、私は13年。足して40何年の合作としての首相ではないかと思っている」と語った。(5. 15 10階ホール)

## ■「科学ジャーナリスト賞2007」授賞式

日本科学技術ジャーナリスト会議(小出五郎会長・元NHK)は優れた科学ジャーナリストの仕事を顕彰する賞を昨年制定した。第2回大賞は著書「論文捏造」(中公新書ラクレ)執筆と関連番組を制作した村松秀・NHK科学・環境番組部専任ディレクターに贈られた。他の受賞者は信濃毎日新聞文化部の山口裕之記者(医療支援団体の活動を通じたチェルノブイリ原発事故の追跡報道班代表)など。(5. 15 宴会場)

照会先: 日本科学技術ジャーナリスト会議事務局  
Tel: 03-5414-1002 <http://www.jastj.jp/>

## ■日本ジャーナリスト懇話会総会と記念講演

塩川正十郎元蔵相が「日本政治の進路を語る」のテーマで講演した。(5. 16 宴会場)

## ■成功させよう 日印交流2007

日印両国間で文化協定が結ばれて50周年。5月23日には郵政公社から記念切手が発行されたほか、インドからはマンゴーの輸入が解禁された。これを機会に、環境・文化弘報研究所(志村弘雄理事長・元毎日)が「インドの集い」を企画・開催した。このマンゴーの輸入解禁については昨年6月、ナート商工相がクラブ会見で言及していた。(5. 22 10階ホール)

## ■春秋会

同会は新聞13社で構成される。菊池北海道、白井中日、多田西日本、一力河北、小坂信毎、星野新潟、飛田北國、増田京都、稲垣神戸、佐々木山陽、山本中国、牧野愛媛、岩井高知の各新聞社の会長・社長が安倍首相、世耕首相補佐官と懇談した。(5. 23 宴会場)

## ■今年もまた新たな縁(えにし)を結ぶ会!

元朝日新聞論説委員・大熊由紀子さんを囲む交流会。「がん対策基本法」制定に尽力した山本孝史参院議員や

## 新しいOB会員

辻哲夫厚労省事務次官はじめ医療・介護現場の関係者や記者など約300人が出席した。(5. 26 10階ホール)

## ■「農業ジャーナリスト賞」表彰式

農政ジャーナリストの会(合瀬宏毅会長・NHK解説委員)第44回総会の席上、農林水産業、食料、農村漁村の地域問題などの優れた報道に対して贈られる「農業ジャーナリスト賞」の表彰式も行われた。受賞は◆ニッポン開墾~中山間地からの発進(河北新報社)◆木曾・王滝「官」の村から(信濃毎日新聞社)◆土佐ジロー20歳 スーパーブランド鶏物語(高知新聞社)の3作品。また、宮脇淳北海道大学公共政策大学院教授が「第2次地方分権改革と経済社会-国の役割、地方の役割」と題して記念講演した。(5. 28 宴会場)

照会先: 農政ジャーナリストの会事務局

Tel: 03-3245-7636 <http://jaja.cside.ne.jp/>

## ■IPTC東京総会レセプション

国際新聞電気通信評議会(IPTC)の第42回年次総会が東京で開催された(5. 28~31)。日本での年次総会開催は10年ぶり4回目。16カ国から技術責任者など55人が参加、レセプションには関係者も含め約80人が出席した。(5. 30 宴会場)

照会先: 日本新聞協会編集制作部技術・通信担当

Tel: 03-3591-6806 <http://www.pressnet.or.jp/>

## ■日本外交協会総会と5月例会

外務省の西村六善地球環境問題担当大使が講演した。(5. 30 宴会場)

照会先: 日本外交協会 <http://www.spjd.or.jp/>



**バー、レストラン、宴会**

予約電話 和食3503-2723 洋食3503-2766



**スタンダード・シリーズ  
6月は「DONNA DONNA」**

今月はパイナップルジュースをベースにしました。カクテル名は「ドナドナ」。ドライジン、チェリーブランデーなどでアレンジしました。吉富オリジナルのソフトドリンク「夜明けの歌」もおためしくください。



**鱧懷石コース (6月29日まで)**

鱧づくしのコースをこども用意しましたので、おためしくください。冷酒つきで5250円です。(板長: 薬科浩)

先付: 鱧、順才、枝豆、長芋 お椀: 鱧切り落とし 生もの: 鱧、鮪、勘八 焼物: 鱧南部焼き 煮物: 鱧紀州煮 揚物: 鱧アスパラ巻揚げ 食事: 鱧御飯 水菓子: 抹茶アイスクリーム



**千倉産アワビのステーキコース**

(7月2日~31日まで)

毎夏恒例、期間限定のアワビコースです。こしはさっぱりしたワサビ風味ソースでめしあがっていただきます。これに、前菜、スープ、サラダ、デザート、グラスワイン、パン、コーヒーがついて6500円です。ご予約願います。

好評のカナダ産オマール海老のディナーコース(4110円)は6月29日までです。(シェフ: 黒須修一)

**8月の貸室は50%引きです**

8月の部屋代は一律半額です。まだご利用いただける日がありますので、早めにお申し込みください。(03-3503-2724)。この期間限定の特別宴会プラン(フールドリンクで1人4500円)も用意しています。

**夏の臨時措置のお知らせ**

8月13日(月)~18日(土)の1週間、ラウンジは午後6時まで、会議室は午後5時までとさせていただきます。この間、9階和食レストランはお昼のみの営業です。10階洋食レストランは平常通りです。

**クラブの電話 ダイヤルイン**

和食レストラン (9階)	会員事務
3503-2723	3503-2725
洋食レストラン (10階)	経 理
3503-2766	3503-2728
貸室予約、宴会打ち合わせ	
3503-2724	
受 付	会見申し込みアドレス
3503-2721	kaiken@jnpc.or.jp
クラブ行事への申し込み	URLアドレス
3503-2722	http://www.jnpc.or.jp

**会報委員会**

委員長 = 住田良能  
委員 = 池谷 忍 石田昭彦 伊藤三郎 仙石伸也  
高橋利行 西田善夫 松本侑壬子  
連絡 = 長谷川和子 本庄五月  
(電話 03-3503-2752 FAX 03-3503-7271)

**日経CNBCが入会しました**

日経シー・エス・ピー・シーが6月1日付で法人会員として入会しました。1999年に日本経済新聞社と米NBC、ダウ・ジョーンズ社が中核になって開局した24時間経済専門チャンネルです。視聴契約は全国で600万世帯を超えています。これで法人会員社は新聞・通信79社、放送68社、計147社となりました。

同社の住所、登録会員は下記の通りです。

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-4

国際興業神田ビル5階

TEL: 03-5298-5801

法人会員代表 野村 芳顕 代表取締役会長  
基本会員 池田 俊作 代表取締役社長  
個人A会員 板井 俊二 編成制作本部副本部長  
個人C会員 桐山 勝 常勤監査役

**プレスセンタービル外壁点検・補修工事**

プレスセンタービルの外壁(ドーム屋根部分を含む)の点検・補修工事が7月中旬から10月下旬にかけて行われます。この期間、足場が組まれ、ビル全体にカバーがかけられます(10階アラスカの日比谷公園側を除く)。そのため、9階の貸室(宴会場、大・小会議室)、食堂、ラウンジの窓から足場が日に入ることになります。工事は週末に行うため、音などの問題でご迷惑をおかけすることはないと思います。

1976年にビルが出来て以来初めての全面的な工事になるため、何かと不自由をおかけするかと思いますが、ご了承ください。

**記者会見出席の申し込みを**

クラブの記者会見、昼食会に参加される場合は、会場や準備の都合がありますので、必ず事前に事務局へお申し込みください。キャンセルや時間変更などが生じた場合、登録済みの方にはお知らせしています。

<会員現況> 法人会員 147社 基本会員 809人  
個人会員 1,644人 法人・個人賛助会員 72社 180人  
特別賛助会員 75人 名誉・功労会員 9人  
計 219社 2717人

HP <http://www.jnpc.or.jp/>

**「会見速記録」: 5月の新規掲載**

●岡部信彦国立感染症研究所感染症情報センター長・インフルエンザパンデミック対策チーム代表「新型インフルエンザ対策」(2007. 2. 27) ●ローレンス・レベタ大宮法科大学院大学教授「大統領の『権力』と国民の『力』が対峙するとき(和英)」(2007. 4. 25) ●都甲岳洋元駐ロシア大使「プーチンのロシア」(2007. 4. 13)

**今後の行事予定 (6/1現在)**

6. 22 (金) 12:00~14:00 (10階ホール)  
ライト在日米軍司令官昼食会  
6. 27 (水) 15:00~16:30 (10階ホール)  
米田壯・警察庁組織犯罪対策部長記者会見

行事案内専用電話 03-3503-3764

日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をテープでお知らせしています。



## 写真回廊

撮影

大西 正純

(産経新聞社  
東京写真報道局)



山開きから閉山までの約半年間「涸沢ヒュッテをベースに「北アルプス特派員」―北穂高岳頂上直下で日の出を待ち撮影(5・4)

### 「美しい国」の上界と下界

「アルプス一万尺……」―60年代半ばに登山ブームが起こり、多くの若者は本格的な登山でなくとも山歩きを楽しみ、歌声喫茶では肩を寄せ合い、この歌を高唱した。高齢者ならだれにも懐かしい、心を高ぶらせた青春時代の思い出になっている。

しかし、専門家の受け売りをする、いまは高さと困難性に挑戦する精神性をうたいあげた「アルピニズム」なんて言葉はほぼ死語となっているという。登山のレジャー化が進み、高峰も俗化したのだ。あのエベレストの登頂記録だって世界に三千人以上もいるのだから無理もない。

そうはいつても、朝焼けに染まるこの北穂高の大キレットは「美しい国」日本の上界を二時的に切り取って感動的である。息をのむような無垢の世界だ。

だが、感興にひたりつつも、思いはついつい下界へと向かってしまう。安倍首相の音頭でこの下界に「美しい国」が果たして再興できるだろうか、と。少年が仲間や親を殺し、親が子を平然と殺す異常さ。拳銃事件の頻発。規範も規律も吹っ飛んだ世相をながめると、やはり心もとない。

(清本 修身)